

ざんが

第六一号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八―一

平成 二一年

TEL 〇七五―六三二―二二七二

西暦 二〇〇九年

FAX 六三二―五七二五

春彼岸三月号

E-MAIL tounji@softera.jp

日本曹洞宗の宗祖、道元禅師を主人公にした映画「禅 ZEN」 ご覧になっていただけましたでしょうか。予想以上に興行成績が良いというニュースを耳にし、喜んでいきます。

どちらかという禅師の後半生に注目したストーリー。中国（宋）からお帰りになった禅師は、「私が体得したのは、お釈迦さまより伝わった正しい仏法だ」という信念のもと活動をされるわけですが、周りからは嫉妬や反感も買ひ、最終的には京都を追われ越前（福井）に至る経験もされています。

そんな歴史的背景の中、禅師や弟子たちが出会った二人の人物との絡みが、映画の主軸になっています。

一人目はおりんという遊女。これは史実はもちろん、原作にもない架空のキャラクターです。

彼女は瀕死のわが子を連れて禅師に助けを求めますが、「今まで身内をひとりも亡くしたことの無い家から豆をもらってくれば助かる」と言われて走り回ります。

これはお釈迦さまと鬼子母神とのエピソードがもとになっていますね。身内を亡くし悲しい思いをしたことのない家はなく、これで彼女が子どもの死を受け入れるきっかけとなります。



二人目は幕府執権北条時頼。弱冠二十歳にして、当時の最高権力者です。今まで葬ってきた敵の怨霊に悩む時頼は、その救いを禅師から得ようとしています。禅師は、時頼の苦悩は自分の撒いた種と喝破し、執権を降りるよう忠告します。拒否する時頼に、禅師はさらに「あなたは救われたいと願いながら、なにひとつ捨てる勇気がない」とまで言い放ちます。

禅の専門用語もどんどん出てきますし、ナレーションによる背景の説明もあります。基礎知識のない人にはわかりにくいかな。・とは思いますが、俳優さんたちの演技はすばらしく、また堂内の映像は美しく、それらを見ているだけでもいい気持ちになります。

この映画の価値は、「心のやすらぎや豊かさは、かんたんに手に入るものではないのだ」ということと、「しかし、苦悩の中にこそ、やすらぎや豊かさへ至る道のヒントがあるのだ」ということを伝えようとしているところにある、と思います。それは、社会の底辺に生きるおりんにも、社会の頂点に立つ時頼にもおなじ気持ちを起こさせるものであったわけです。

永代供養塔 はじまります

ご遺骨を共同で埋葬し、あとの供養をお寺がおこなっていくお墓、「永代供養塔」が完成しました。

いまお墓がなく、これから建てても自分がいなくなってしまうから、おまいりしてくれる人がいない・・・という悩みをお持ちの方には、選択肢の大きなひとつかと思えます。

供養塔は「五輪塔（ごりんとう）」と呼ばれる形をしています。

「地・水・火・風・空」の五つで、世界は作られているという考えからできてきたものです。

現在でもすでに、何人かの方からお申し込みやお問い合わせをいただいております。関心をお持ちでしたら直にご覧いただき、気軽にご相談くださいませ。なお、お申し込みは檀家さんに限らせていただいております。



得度式がおこなわれます

来る三月二四日、春彼岸法要の日の午後一時より、いつもは法話をしている時間を使って「得度式（とくどしき）」をおこないます。

これはお坊さんの仲間入りをする式で、住職の二人の孫が受けます。東運寺では、およそ三十年ぶりとなります。

当日はぜひお越しになって、小さなお坊さんが誕生する瞬間をお見守りください。

玄関ギャラリー通信

ずっと続いている、淀・山本さんの盆景では、季節ごとのさまざまな自然の景色を表現されておられています。

さらに、淀・杉山さんの水彩画。おだやかであたたかな花の絵が、とても良い雰囲気を与えてくれています。

また、沓掛・富原さんの手芸品はきれいな布を組み合わせたもの。毎年、千支のものをお持ちいただいております。今はもちろん牛が飾られています。

このギャラリーが、檀信徒みなさまの発表の機会や、交流のお役に立てればと願っています。